

安全で正確な検査をご提供するために、当財団安全基準により実施できない検査があります。
ご理解とご協力をお願い致します。

No. _____

- ◆ 飲食後（ガム・飴・ジュース・コーヒー・紅茶 等含む）8時間以上経っていない方は受診できません。
- ◆ 胃がん検診安全基準に該当する方は受診できません。当日の体調や問診等で受診できない場合があります。
- ◆ 胃・十二指腸の治療中または経過観察中の方は、かかりつけ医療機関で受診してください。
- ◆ 検査当日は禁煙をしてください。ガム・飴・ジュース・コーヒー・紅茶等も口にしないでください。
- ◆ 血圧の薬を服用中の方は、検診2時間前までにコップ一杯程度の水または白湯で服用してください。
- ◆ ベルト、ボタン、ファスナー、ホックがない服装で、磁気治療具・腹巻・コルセットは外してください。
- ◆ 呼吸器疾患のある方は誤嚥により症状が悪化する場合があります。

◆次の場合は必ず医療機関を受診してください◆

- ◎ バリウムや緩下剤服用後に過敏症（アレルギー症状）が発現した場合
①強い吐気、腹痛 ②じんましん、発赤、唇の腫れ、喉が詰まる、息苦しい ③気分不良、冷汗、顔色が青白くなる
- ◎ 検査翌日夕方までにバリウム便が排出されないまま放置した場合
バリウム便が排出されないまま放置すると、腸が詰まる、腸に穴が開く恐れがあります。

胃がん検診安全基準

- ① バリウムや緩下剤で下記のような過敏症（アレルギー症状）がでたことがある。
強い吐気、腹痛、じんましん、発赤、唇の腫れ、喉が詰まる、息苦しい、冷汗、気分不良、顔色が青白くなる 等。
- ② 妊娠中または妊娠の可能性がある。
- ③ 次の基準に該当している。
 - ・ 体重が110kgを超えている。 ・ 腹部手術を受けたことがある。 ・ 便秘症で、すでに3日以上排便がない。
 - ・ 血圧が収縮期180mmHg、または拡張期110mmHgを超えている。
 - ・ 現在、腹痛などの腹部症状がある。潰瘍性大腸炎、クローン病で治療中（経過観察中含む）である。
 - ・ 過去1年以内に内視鏡でポリープや粘膜を切除した。 ・ 腎臓病（人工透析）などで水分制限を受けている。
 - ・ 過去1年以内に腸閉塞、心筋梗塞、脳梗塞を起こした。またはそれらを繰り返したことがある。
 - ・ 自力で立つことができない、階段の昇降ができない。撮影台の手すりを掴み身体を支えることができない。
 - ・ 食事中よくむせることがある。ものがうまく飲み込めない。 ・ 呼吸器疾患等で酸素吸入をしている。
 - ・ 体内埋込型除細動器（ICD）・インスリンポンプ・持続グルコース測定器を装着している。

腹部手術を受けたことがある方へ

腹部手術とは開腹手術・腹腔鏡手術をさします。手術後の癒着によって腸閉塞や腸穿孔などの危険性が、腹部手術をしていない人に比べ高くなると考えられるため、原則受診いただけません。

食道・胃・腸・虫垂（もうちょう）・肝臓・胆のう・すい臓・脾臓・腎臓などの内臓、子宮・卵巣など産婦人科系や前立腺など泌尿器科系の手術も含まれます。

但し、以下の1～3の項目をすべて満たす方で、ご署名をいただいた場合、胃がん検診を受けることができます。

※「20歳未満に受けた手術」と「出産のための帝王切開」のみ、リスクの程度を考慮し項目2は緩和できます。

1. 手術後、1年以上経過している。
2. 手術後に胃がん検診（バリウム検査）を受け、何も症状がでなかった。
3. 「手術後は腸管癒着により腸閉塞や腸穿孔のリスクが高い」ことを理解された上で、検査を強く希望している。

胃がん検診を受診する方はご記入ください。

胃がん検診安全基準を十分確認しました。また、上記基準に該当しません。 はい

以上の注意事項の内容を確認し、同意のうえ受診します。

署名 _____